

新型コロナウイルスワクチン接種に関する 都道府県調査結果

医療従事者等向け(第1弾)、高齢者向け(4月)接種にかかる追加調査

三重県知事 鈴木 英敬

全国知事会新型コロナウイルス感染症ワクチン接種特別対策チーム
副チームリーダー(分析担当)

追加調査の背景

- 現在準備を進めているワクチン接種体制及びワクチンの分配・追跡を行う「**ワクチン接種円滑化システム(V-SYS)**」は**大規模接種を前提**としているが、3月に配分される医療従事者等向け(第1弾)、4月19日までに配分予定の高齢者向けのワクチンは、**対象者に比して供給量が非常に少なく、全ての基本型接種施設や市区町村へ配分できない見込み**。
- 2月17日の自治体向け説明会において、**冷凍状態で移送し、移送先の施設にあるディープフリーザーで保管した場合、ワクチンの有効期間まで保管が可能であることが示されたこともあり、ワクチン供給が限定的である間は、施設間でワクチンの移送を行うことで接種施設を増やす方法も検討の余地がある**。
- しかしながら、ワクチン移送にあたっては、**移送時の注意事項に加え、V-SYS上の取扱いにも留意する必要がある**。
 - ・ **基本型接種施設から連携型接種施設又はサテライト型接種施設への移送は認められているが、基本型接種施設から基本型接種施設へワクチンの移送は認められていない**。
 - ・ **基本型から基本型への移送を検討した場合、移送先の施設を、V-SYS上、連携型として登録することで対応可能となるものの、現状は、一度連携型として登録した施設を基本型に随時変更できる仕様にはなっていない**。
- 今後、医療従事者等接種と高齢者向け接種が同時期に行われる可能性があるが、**医療従事者等接種の際と住民向け接種の際で、「基本型」「連携型／サテライト型」の役割が異なる施設も想定される**。**医療従事者等接種と高齢者向け接種が併存する場合のV-SYS上の取扱い**については不明な点が多くあることから、各自治体における現在の検討状況を確認したい。

新型コロナウイルスワクチン接種に関する調査項目（追加調査）

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷(第1弾)について

- ワクチン配分の考え方
- 接種計画との整合性
- 課題・工夫・要望等

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷(予告)について

- ワクチン接種開始時期の予定
- 市区町村への配分予定
- ワクチン移送にかかる想定
- 課題・検討状況・国への要望等

3. 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる場合の課題等について

- 接種時期が重複する場合の懸案事項
- 医療従事者等接種と高齢者向け接種で「基本型」と「連携型／サテライト型」施設の位置付けの変更想定
- 課題・国への要望等

4. 医療従事者等接種対象者の内訳について

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）について

【設問1-1】

令和3年2月19日付け「医療従事者等向け新型コロナワクチン出荷（第1弾）」に関し、都道府県内でどのように配分しましたか

	自院職員のみ	自院職員＋ 団体型医療機関職員 ^{注2}	小計
全て基本型接種施設	3	2	5
基本型接種施設 →連携型接種施設	10	6	16
基本型接種施設 →基本型接種施設 ^{注1}	2	0	2
基本型接種施設 →基本型 ^{注1} 及び連携型接種施設	13	10	23
その他	1		1
小計	29	18	47

注1:当初基本型接種施設としてディープフリーザーを設置したものの、今回連携型として登録した場合を含む

注2:団体型医療機関職員:基本型及び連携型接種施設以外の医療従事者等接種の対象者

(n=47)

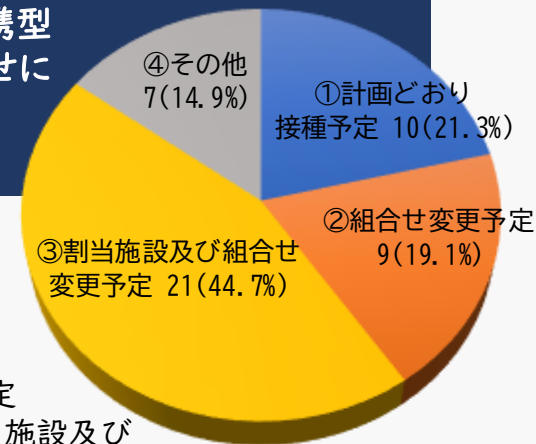
その他

- まずは基本型施設へ配分し、基本型施設の自院職員に接種する。余りが生じた場合は連携型施設に配分し、連携型施設の自院職員に接種する。

【設問1-2】

第1弾のワクチンに関し、2月17日までに国に提出した接種計画に記載した基本型接種施設-連携型接種施設の組み合わせに基づく配分や接種を行う予定ですか

- ① 接種計画のとおり接種を行う予定
- ② 基本型-連携型の組み合わせを変更予定
- ③ 基本型、連携型の割当施設及び基本型-連携型の組み合わせを変更予定
- ④ その他



(n=47)

その他

- 連携型施設を増やした
- 基本型-基本型の移送を希望する市区町村が多く、国に問合せ中
- 全て基本型かつ自院職員のみ
- 感染症指定医療機関、入院協力医療機関に限定配分
- 一部の基本型施設を今回に限り連携型に変更

○ 医療従事者等向け新型コロナワクチン（第1弾）の配分予定については「基本型施設⇒基本型及び連携型接種施設」かつ「自院職員のみ」との回答が最も多かった（13）。

○ 第1弾のワクチン配分にかかる基本型／連携型接種施設の組み合わせについては、計画どおり接種予定は約21%で多くの都道府県が接種計画を見直しており、特に基本型／連携型の割当施設及び組み合わせをともに変更した都道府県が多く見られた（約45%）。

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）について

【設問1-3】

医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）についての課題、工夫した点、国への要望等（1/4）

No.	①課題(n=16)
1	<p>【配分量が少なく計画が立てられない、配分調整に難渋、接種未実施地域の発生 (n=9)】</p> <ul style="list-style-type: none">・今回の配分量は全体の約20%と少ない。また、その後の配分情報もなく、計画が立てられない。・基本型接種施設すべてに配分できないため、調整に難渋。・優先接種希望者数とワクチン出荷数の乖離が大きく、接種スケジュールに影響が出ている。・指定医療機関従事者全員を接種する計画であったが、全施設に配分できず、続く、指定医療機関以外の基本型接種施設への配分を考えていたが、それらにも配分もできず、計画に遅れを来している。・コロナ患者受入れ病院が多数ある中、限られた病院にしかワクチンが供給されないこと。・基本型接種施設の配分が限られ、医療従事者等への接種を全く行うことができない地域が複数発生。
2	<p>【計画修正、組み合わせの変更 (n=5)】</p> <ul style="list-style-type: none">・数量が少なく、当初予定していた基本型・連携型のグループでは配分が難しく様々な組み合わせを行うなど柔軟な対応が必要になったが、柔軟な対応をすることを厚生労働省が認めなかったこと。・基本型→連携型の関係を柔軟に変更できない。1回目と2回目接種の配送先を個々に設定できないことから、基本型→基本型の移送を検討せざるを得なかった。・基本型→基本型の移送にあたり、一時的に連携型接種施設に変更する必要性が生じた上に、今後基本型接種施設へ戻す必要があり、医療機関に対し余分な負担をかけることとなる。・1回目・2回目ペアでの配送により最小流通単位が2箱(390バイアル)となり、残数が少量となった際、不要なワクチンが届くことや、今後、第〇弾と複数の配送計画が行われた際、混乱することが予測される。
3	<p>【その他 (n=2)】</p> <ul style="list-style-type: none">・第1弾の配分で基本型を3施設に限定せざるを得ず、ワクチンの配送や管理が煩雑になっている。・第1弾のワクチン供給量が限定的なため、第1回目と第2回目で勤務先が異なる場合、新しい勤務先がワクチン供給を受けていない可能性があり、各医療機関間で個別の調整が図られている。

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）について

【設問1-3】

医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）についての課題、工夫した点、国への要望等（2/4）

No.	②工夫(n=26)
1	<p>【基本型—基本型の移送、マッチングの変更等 (n=12)】</p> <ul style="list-style-type: none">・基本型を連携型に変更した上で基本—基本間で冷蔵で移送し、5日以内に接種するなどの工夫。・小分けし、基本型から基本型／連携型へ移送（移送先の基本型接種施設は今回に限り連携型に変更）。・人数が少ない病院の余剰分を人数が多い病院に移送することにより、基本型施設の自院対象者をカバー。・同一市区町村内の紐付け変更し、市区町村をまたいだ紐付けを行い小分けした。・地域ごとに予定していたマッチングを変更し、コロナ患者受入医療機関の間で新たなマッチングを行った。・1カ所から7カ所への小分け配送や複数の基本型から供給を受ける連携型接種施設を設ける等の工夫。・割当てできない施設を連携型（冷凍配送）し、地域エリア一体的にワクチン接種ができるよう配送計画を修正。
2	<p>【対象者選定の工夫 (n=9)】</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナ対応の最前線で対応に当たる医療従事者からワクチン接種を行うことができるよう調整。・職員数の多い施設から優先し、さらに接種対象者を多数受け入れる医療機関に配布。・各地域に1箱を配分。残部について、優先接種者見込数及びクラスターの発生日合を勘案して配分した。・地域性に配慮しつつ、病床確保・占有率など新型コロナ患者の受入等に積極的な医療機関を選定。・基本型接種施設及び感染症指定医療機関の従事者数の割合を乗じて箱数を算定。・感染症指定医療機関と入院協力医療機関の医療職（医師・看護師・技師等）に限定して、配分。
3	<p>【配送拠点 (n=3)】</p> <ul style="list-style-type: none">・基本型とした県の配送拠点にもストックし、連携型接種施設での接種時に、県の拠点から配送を行う準備。・県予防保健協会を全県対応する基本型接種施設と位置付け、県内医療機関に分配・搬送を行うこととした。
4	<p>【その他 (n=3)】</p> <ul style="list-style-type: none">・発送予定週の翌週からを接種開始時期として位置づけ、接種期間は概ね10日間を設定した。・感染症専門家・医師会・病院協会からなる「新型コロナウイルスワクチン供給調整本部」を設置し、専門的な知見を踏まえ、ワクチンに係る供給方針を定めた。

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）について

【設問1-3】

医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）についての課題、工夫した点、国への要望等（3/4）

No.	③国への要望(n=78)
1	【ワクチン確保、スケジュールの早期提示等 (n=12)】 <ul style="list-style-type: none">・第2弾以降のワクチン供給スケジュールを早期に示すとともに、必要量のワクチン確保に努めて頂きたい。・配送の詳細スケジュールが直前まで示されず現場が混乱したため、詳細な配送計画を示していただきたい。・配分数の提示から報告までの期間が短く、十分調整できないため、報告までの期間に配慮されたい。
2	【基本型ー基本型の移送、柔軟な運用等 (n=10)】 <ul style="list-style-type: none">・基本型接種施設間で冷凍でのワクチン移送を行うことを了承していただきたい。・やむを得ず基本型から一旦連携型にした施設を元の基本型施設に変更することを可能にいただきたい。・ワクチンのトレーサビリティの観点で基本型ー基本型の移送が不可とのことであるが、ワクチン供給量に応じた対応のため、ワクチン配分ルールやV-SYS仕様について、柔軟な対応ができるよう検討をお願いしたい。・ワクチンの無駄をなくすため、基本型と連携型のマッチングは県で柔軟に対応させていただきたい。・各施設に1箱ずつ供給することが可能となるような裁量を都道府県に与えてほしい。・医療従事者等接種のワクチンに残量について、高齢者向け接種で使用することを認めてもらいたい。・国への報告後の接種予定者数の変更については、一定数以内は都道府県に一任いただきたい。
3	【資機材の確保 (n=2)】 <ul style="list-style-type: none">・優先接種は6回採取可能なシリンジを用意いただきたい。・基本型接種施設に配布される保冷ボックスセットを速やかに送付して欲しい。
4	【その他 (n=5)】 <ul style="list-style-type: none">・基本型接種施設が行う業務について具体的な手順を示すなど、基本型施設の負担軽減に努めてほしい。・「第2回目接種が見込まれない医療従事者は第1弾の接種対象から除外する」等のアナウンス。・V-SYSを操作できるよう、登録するためのパスワード等の通知を急いで欲しい。・ワクチン配分について、陽性者数や確保病床数を勘案していただきたい。・できる限り速やかに医療従事者等の優先接種を完了し、高齢者に対する優先接種への移行を図ること。

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）について

【設問1-3】

医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）についての課題、工夫した点、国への要望等（3/4）

No.

③国への要望(n=78)

【総合的内容】

5

- ・当初想定していた量よりも相当少ない量の供給であり、自治体や現場でさらに優先順位の検討が必要となることから、一度、国においても計画やスケジュールを見直す必要があるのではないか。現状、その対応に自治体は相当振り回されている。
- ・医療従事者等の範囲の度重なる変更（優先接種が必要との趣旨から変わっているように感じる。）、V-SYSの度重なるメンテナンスや、ID付与の遅れ、優先的に接種するとした医療従事者等へのワクチン確保が不透明なまま高齢者向けの極少量のワクチン配布、かなり限定的な接種の開始等、国において、一度計画を見直し、不確定要素も公表の上、確実性の高い計画を示して頂きたい。なんのため医療従事者等が優先的に接種することになったのかが分からない状況になっている。
- ・ワクチンの供給量が相当少ないため、基本型→基本型のワクチン移送を認める等、柔軟に運用できるような体制にして欲しい。
- ・情報が遅すぎるうえに、依頼の期限も短いため、関係機関との十分な調整が行えない。
- ・V-SYSについては、マニュアルも操作画面も各団体や医療機関で異なるため、使い勝手が良いとは言えない。

1. 医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）について

【設問1-3】

医療従事者等向け接種ワクチン出荷（第1弾）についての課題、工夫した点、国への要望等（4/4）

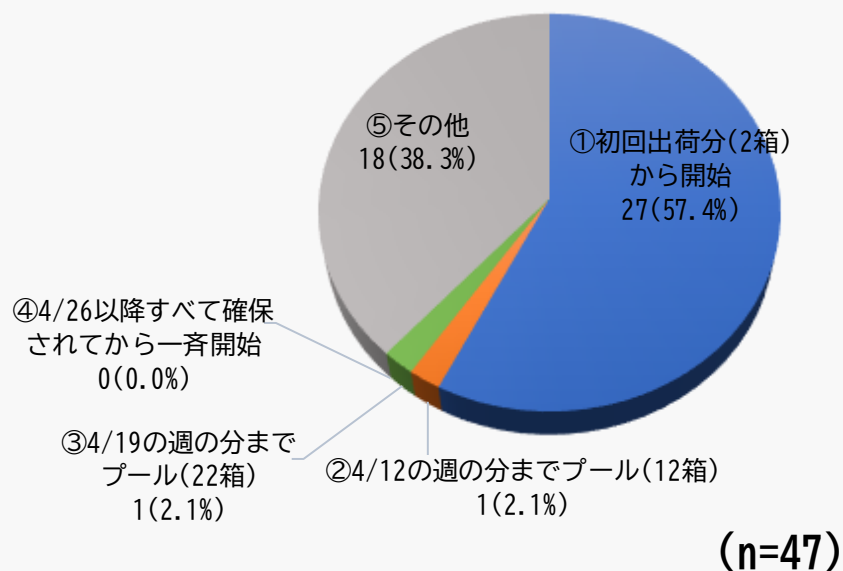
- ワクチン供給量が少量であること、1回目接種、2回目接種の配送先の変更が認められないことから、各都道府県において、配分先の決定が大きな課題となった。
- その結果、基本型施設の一部にしか配分できず、医療従事者等への接種を全く行うことができない地域が複数生じている都道府県もある。
- ワクチンの供給量が限定的な時点では、地域間での公平性を保つためにも、基本型施設から基本型施設への移送が必要となる場合もあるが、現時点で認められていないことが課題である。
- 基本型施設から基本型施設への移送が認められないことから、一部の基本型施設を連携型施設に変更することで、ワクチンの移送を行う事例があり、また、複数の基本型施設から移送を受ける連携型施設を設定する事例もある。
- 基本型施設の医療機関のほかに、基本型施設として位置付けた県の配送拠点にもストックし、今後接種を開始する連携型施設での接種時に、県の拠点から配送を行う準備を進めている事例がある。
- 基本型施設から基本型施設へのワクチン移送を柔軟に認めることや、やむを得ず基本型施設から一旦連携型施設に登録替えした場合に、元の基本型への変更を認めることが求められる。
- 複数の基本型施設からワクチンの移送が受けられるなど、基本型施設と連携型施設のマッチングの柔軟な対応が求められる。
- 各都道府県の実情に応じた接種が円滑に実施できるよう、ワクチン供給の範囲内で都道府県において弾力的に対応できる仕組みとすることが求められる。

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷（予告）について

令和3年2月24日付け「高齢者向け新型コロナワクチン出荷（予告）」において、各都道府県向けに以下の出荷予定が示されました。

	4/5の週 (第1弾 1回目・2回目) ※接種開始：4/12	4/12の週 (第2弾 1回目・2回目)	4/19の週 (第3弾 1回目・2回目)
第1弾	2箱 (1箱×2)		
第2弾		10箱 (5箱×2)	
第3弾			10箱 (5箱×2)

【設問2-1】4月5日の週から4月19日の週にかけて3回に分けて出荷されるワクチンの接種開始時期をどのように考えていますか（現時点での考え方）



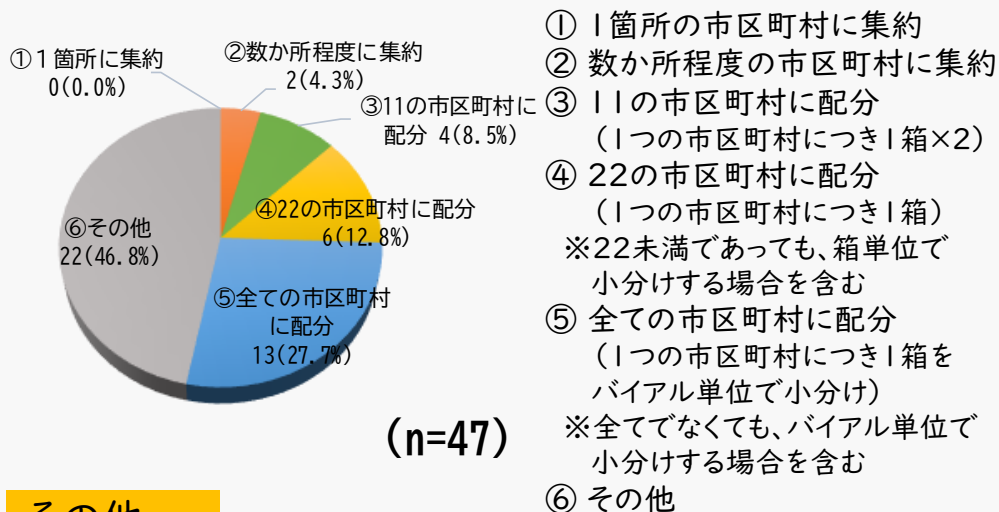
- ① 初回出荷分(2箱)から接種開始
- ② 4月12日の週のみプール(12箱)し、接種開始
- ③ 4月19日の週のみプール(22箱)し、接種開始
- ④ すべての市区町村に配分予定の4月26日の週までプールし、都道府県内で一斉に開始
- ⑤ その他

その他

- 各市区町村の実施計画により実施
- 各市区町村の体制整備状況次第
- 検討中・未定・調整中

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷（予告）について

【設問2-2】4月5日の週（1箱×2）、4月12日の週（5箱×2）、4月19日の週目（5箱×2）の市区町村への配分（案）をどのように考えていますか（現時点での考え方）

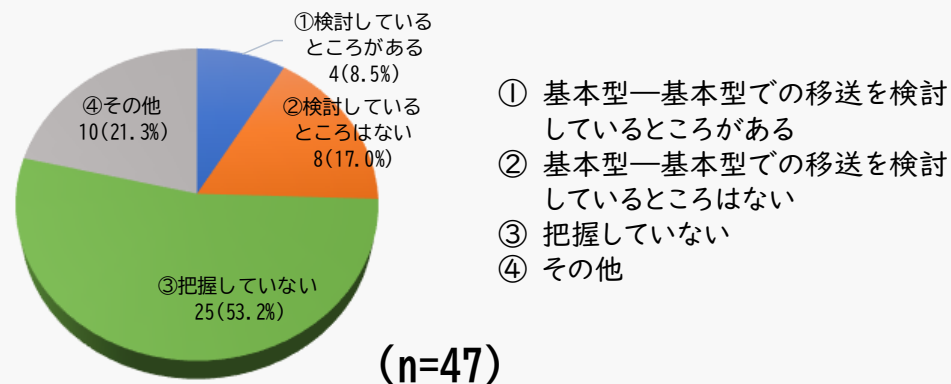


- ① 1箇所の市区町村に集約
- ② 数か所程度の市区町村に集約
- ③ 11の市区町村に配分（1つの市区町村につき1箱×2）
- ④ 22の市区町村に配分（1つの市区町村につき1箱）
※22未満であっても、箱単位で小分けする場合を含む
- ⑤ 全ての市区町村に配分（1つの市区町村につき1箱をバイアル単位で小分け）
※全てでなくても、バイアル単位で小分けする場合を含む
- ⑥ その他

その他

- 接種実施を希望する市区町村数に応じて検討
- モデル的市区町村を手上げ方式で指定
- 対応可能な市区町村に1箱ずつ配布し、人口の多い市区には複数個配布
- 市区町村の準備状況を確認のうえ検討
- 検討中・未定

【設問2-3】高齢者向け4月配布分については、多くの場合、1つの市区町村あたり1箱×2となることが想定されますが、1つの市区町村の中で基本型接種施設として想定していた施設（会場）間での移送（小分け）を検討しているところがありますか



- ① 基本型—基本型での移送を検討しているところがある
- ② 基本型—基本型での移送を検討しているところはない
- ③ 把握していない
- ④ その他

その他

- ワクチンの供給量が少ない状況では、1市区町村内で基本型—基本型間の移送要望は想定される
- 国が可とするなら検討する
- 市区町村への配分が固まった段階で検討
- 接種計画の集約中であり現時点では未定
- 市区町村において調整・検討

- ワクチン接種開始時期は初回出荷分2箱から開始する都道府県が半数以上（約57%）となった。
- 22の市区町村に箱単位で配分（約13%）、小分けして全ての市区町村に配分（約28%）で約41%を占めており、多くの都道府県が、より多くの市区町村に配分する方向で検討している。「その他」と回答した都道府県では、検討中や未定も見られたが、対応可能な市区町村に配布、モデル市区町村を手上げ方式で指定などの回答もあった。
- 高齢者向け4月配布分の基本型施設（会場）間での移送については、把握していないとの回答が約53%と多数を占めたものの、把握している都道府県の中では移送を検討しているところが4か所あった。

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷（予告）について

【設問2-4】

高齢者向け4月配布分についての課題・検討状況、国への要望等（1/4）

No.	①課題（n=22）
1	【スケジュール、医療従事者等と高齢者接種の時期の重なり等、様々な混乱が予測（n=9）】 ・可能な限り多くの市町村に配分したいと考えているが、供給量が限定的であると考えられることから、ワクチンを接種していない医師が高齢者に接種する状況が発生するなど、両者の 当初の優先順位やスケジュールの考え方が混同され、地域で混乱が生じる恐れ があることが懸念される。 ・4月26日の週に各市町村への1箱配布3週間後の 2回目接種分が届くかが不明で計画が立てられない 。 ・国への報告期限がタイトで、 市町の希望や接種体制の実態等を踏まえた十分な検討時間がない 。
2	【対象者の選定（n=5）】 ・高齢者向けワクチン出荷数が極めて少ないため、各市町村において 対象者の選考に苦慮 している。
3	【移送・保管方法、V-SYS上の課題（n=4）】 ・ワクチンの 移送、保管方法 について、今後市町との調整が必要。 ・県のディープフリーザーに集約し、全市区町村に小分け配分する方針であるが、県の基本型で配送を受けるシステムになっておらず、 市町村のディープフリーザー設置場所が連携型になることにシステム上の課題 。 ・バイアル単位で市町に配分する場合の移送方法や V-SYSへの登録上の問題 などがあり、対応に苦慮。
4	【分配方法（基本型→基本型移送、柔軟な対応）（n=4）】 ・全市町村にもれなく分配することが難しい状況で、公平感にも配慮しながら、 高齢者人口のみならず、高齢者の陽性者数等の要素も考慮 しながら配分先を検討したい。 ・各市町に 接種体制が整っているかどうかを調査 し、接種が可能である市町に配分する予定であるが、この量では接種体制が整っているにも関わらず、ワクチンを配分できない市町が生じる可能性が高い。 ・全市町村に配布する場合、医療従事者と同様に 基本型から基本型へのワクチンの移送が生じる 。 ・配分されるワクチン数が少ない場合、基本型接種施設間などの 柔軟な配分ができないと、市町村間の融通がスムーズに行えず、市町村の進捗に差が生じる可能性 がある。

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷（予告）について

【設問2-4】

高齢者向け4月配布分についての課題・検討状況、国への要望等（2/4）

No.	②検討状況（n=7）
1	<p>【調整方法】</p> <ul style="list-style-type: none">・出荷時期の希望調査を実施している。・各市町村への準備状況等のアンケート調査結果を踏まえて検討。・選定方法について、市長会、町村会と相談していく方針。
2	<p>【配布方法】</p> <ul style="list-style-type: none">・バイアル単位で小分けし、すべての市町に配分することも考えていたが、市町を跨ぐ小分けは、移送やV-SYS上、難しいため、11の市町を選定することを考えている。・4月5日の2箱は、デモンストレーション的にならざるを得ない意味合いも含めて選定。・高齢者比率（65歳以上）で按分して配分を行う案で調整中。・各市町村に1箱ずつ配分した上で、高齢者人口に配慮した上で残る3箱を配分する方針を決定済み。

No.	③国への要望（n=38）
1	<p>【スケジュール関連（n=16）】</p> <ul style="list-style-type: none">・配分計画策定にあたっては、一定の考え方にに基づき各市町村への割り当てを計画し、各市町村と共有していくため、計画に支障が出ないように、スケジュールと配送量を早期かつ確実な情報として提供いただきたい。・市町村の数よりも配分される箱の数が少ないような供給スケジュールを組むことはやめていただきたい。・高齢者の4月接種開始に拘らず、まずは医療従事者向け接種を優先的に実施するようにはしていただきたい。・国は4月12日を高齢者向け優先接種の開始日としているが、住民からの予約問合せが殺到することが予想される。市町村の混乱を避けるため、実質的に高齢者優先接種は5月以降であることを周知して頂きたい。・配分計画に関する国への回答期間が短く、調整にかける時間がない。必要量のワクチンの確保に努めるとともに、現場の実情を考慮し、現実的なスケジュールを組んでいただきたい。

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷（予告）について

【設問2-4】

高齢者向け4月配布分についての課題・検討状況、国への要望等（3/4）

No.

③国への要望（n=38）

【方針の提示（n=5）】

- 2
- ・都道府県が考慮すべき配付方針の提示（人口、高齢者人口、高齢者施設など参考にした方がよい指標）
 - ・配布量が少量であるため、高齢者の中での接種順位の考え方など一定のガイドラインを示してほしい。
 - ・優先順位や余剰ワクチンの取扱いなどの面から混乱が生じることなく、地域の関係者等の納得感が得られるよう国としての考え方について、早急に提示するとともに、国民との共有に向け、考え方の周知を図ること。
 - ・施設入所者への接種に際して、入居者がもれなく接種を受けられるよう、住民票の所在地が他の市町村の場合の接種券の発行や予診票の同意の取得に関する手順等を整理し、手引き等として示していただきたい。
 - ・医療従事者向け接種と高齢者向け接種の時期が重なっても、それぞれ円滑に実施できるよう、自治体・接種医療機関向けのマニュアルを早急に示していただきたい。

【供給量（n=5）】

- 3
- ・市町村数に満たない箱数が不定期に配布されても、客観的な配分基準を見出すことが難しいことから、結果として自治体間の無用な軋轢となりかねないため、一度に相応な量を配布してほしい。
 - ・高齢者人口が多い市では、今の供給ペースでは、市民全体に接種が行われるまで相当な時間を要すると考えられ、今後の供給バランスに配慮をお願いしたい。ワクチンの供給量をしっかり確保していただきたい。

【対象者、都道府県裁量（n=11）】

- 4
- ・都道府県の実情に応じて弾力的な対応ができるような仕組みにしていきたい。（例えば、高齢者の接種担当医が未接種となることの無いように都道府県において柔軟に対応を可能とするなど）
 - ・県の基本型接種施設から市町村の基本型接種施設へワクチンが移送できるようにしていきたい。併せて、その際のV-SYSの入力などの取扱いを整理していただきたい。
 - ・高齢者向け接種分を、県の裁量で医療従事者等向け接種へ振り分けられるようにしてほしい。
 - ・県が配送・小分けできるようなシステムに改修をお願いしたい。

- 5
- ・できる限り多くの方に接種できるよう、6回採取可能なシリンジの提供をお願いしたい。

2. 高齢者向け接種ワクチン出荷（予告）について

【設問2-4】

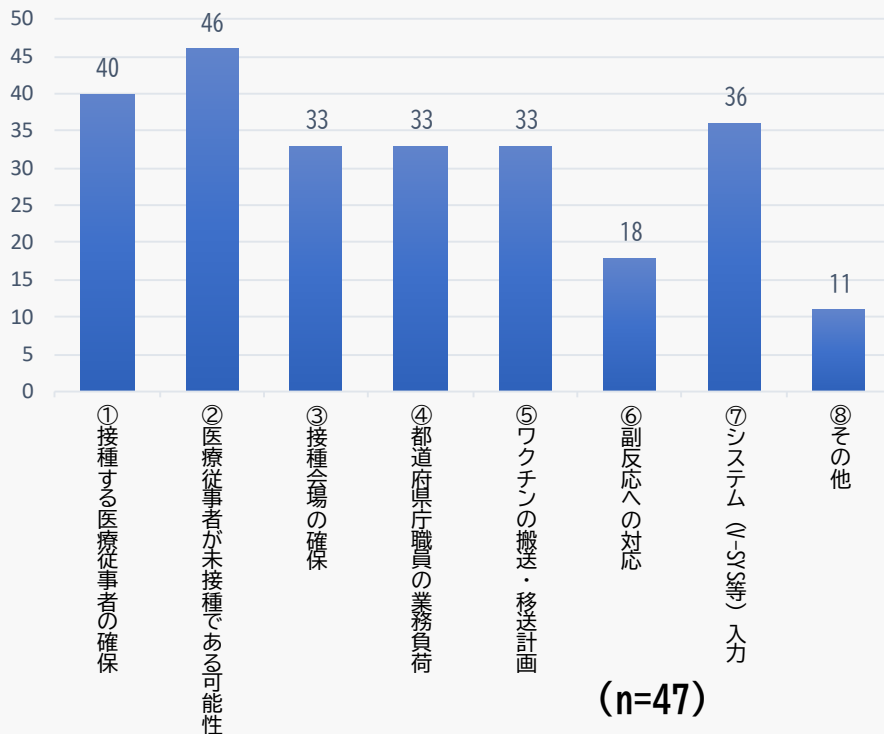
高齢者向け4月配布分についての課題・検討状況、国への要望等（4/4）

- ワクチンの供給量が少ないことから、医療従事者等と同様に基本型施設から基本型施設への移送が必要となる。
- 配分されるワクチン数が少ない場合、基本型接種施設間などでの柔軟な配分ができないと、市町村間の融通がスムーズに行えず、市町村の進捗に差が生じる可能性がある。
- 高齢者向け接種については、医療従事者向け優先接種と並行して始まることになり、それぞれ調整主体が異なることから、現場の混乱が危惧される。
- 市区町村への配分については、準備状況のアンケート調査を行う事例、人口や高齢者人口により按分を行う事例、県のディープフリーザーに集約することを検討している事例等があった。
- 基本型施設間の移送や、高齢者向け接種分のワクチンの医療従事者等向け接種へ振り分けを可能とするなど、柔軟な運用を可能とすることが求められる。
- 国において、都道府県における市区町村への配分の指針や、高齢者の中での優先順位の考え方などを示すことが求められる。
- 5月以降の接種について、各市区町村で接種が可能となる十分なワクチンを確保するとともに、具体的かつ現実的なスケジュールを示し、その上でのワクチンの配送を行うことが求められる。
- 医療従事者向け接種と高齢者向け接種の時期が重なっても、それぞれ円滑に実施できるよう、自治体・接種医療機関向けのマニュアルを早急に示すことが求められる。

3. 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる場合の課題等について

- 4月までのワクチン供給量が限定的で医療従事者等接種が終了せず、5月以降にワクチン供給が安定した場合、医療従事者等接種と高齢者向け接種の接種時期が重なる事態が想定されます。
- 医療従事者等の確保、会場の確保などの課題に加え、V-SYS上の“基本型”“連携型／サテライト型”の位置付けも懸念事項として挙げられます。
※ 医療従事者等接種の際には、連携型接種施設として登録するものの、住民向け接種の際には、基本型接種施設として位置づけられる施設も想定されます（例：小規模の市区町村で、中小規模の自治体立病院が1箇所ある場合など）

【設問3-1】医療従事者等接種と高齢者向け接種の接種時期が重なる際の懸念事項としてどのようなことが挙げられますか（複数回答可）



- ① 高齢者向け接種を行う医療従事者の確保（接種医が重複している等）
- ② 医療従事者自身が未接種の状態でも高齢者向け接種を行わざるを得ない可能性
- ③ 接種会場の確保（接種場所が重複している等）
- ④ 都道府県庁職員の業務負荷
- ⑤ ワクチンの搬送・移送計画への影響（計画の練り直し等）
- ⑥ 副反応への対応
- ⑦ システム（V-SYS等）入力
- ⑧ その他

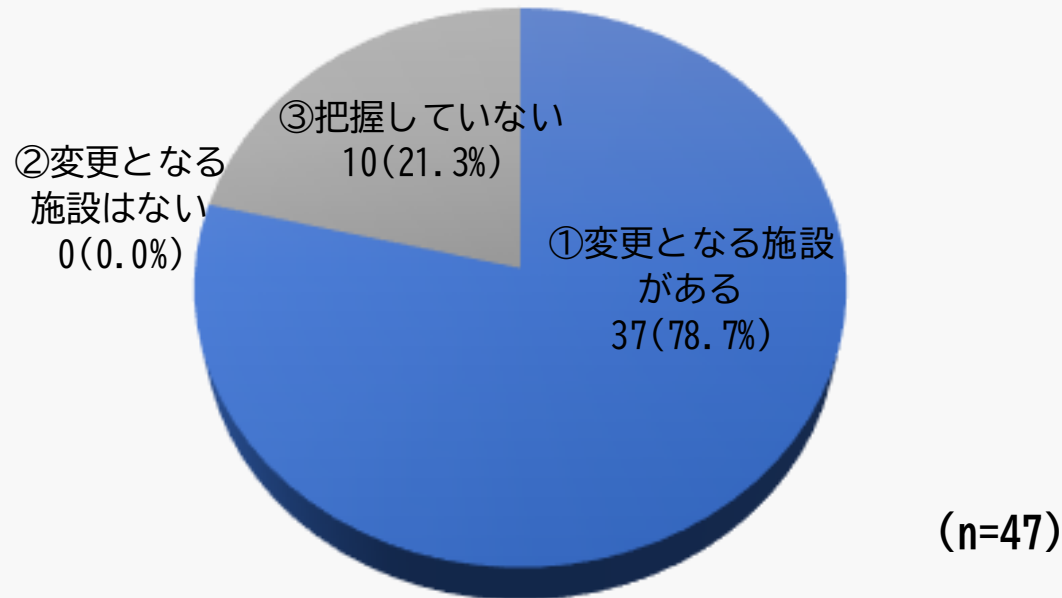
その他

- 会場や医療従事者等の確保不十分による接種者の制限
- ワクチン管理の煩雑化
- 高齢者向け接種用ディープフリーザーには医療従事者等への接種後に使用する想定のもが含まれているため、接種会場の再調整が必要となった
- 医療従事者等は「ワクチン接種記録システム（内閣府）」の対象に含める必要はないのか（省庁間でコンセプト共有はなされているか）
- 高齢の医療従事者で接種できない方がいる一方で、一般の高齢者が接種することになる

3. 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる場合の課題等について

【設問3-2】

医療従事者等接種と高齢者向け接種において、“基本型”“連携型／サテライト型”の位置付けが変更となる施設はありますか



- 医療従事者等接種と高齢者向け接種の接種時期が重なる際の懸念事項については、副反応への対応以外の全ての想定項目で半数以上の都道府県が懸案事項と回答した。特に「医療従事者自身が未接種の状態でも高齢者向け接種を行わざるを得ない可能性」(46)、「高齢者向け接種を行う医療従事者の確保(接種医が重複している等)」(40)を懸案と回答する都道府県が多かった。
- 「その他」の内容として、医療従事者等向けディープフリーザーを医療従事者等接種後に高齢者向け接種用として使用する想定が不可能となり再調整を余儀なくされる懸念や、内閣府システムとの調整がなされているのかなどの懸念の声があった。
- 医療従事者等接種と高齢者向け接種における、“基本型”“連携型／サテライト型”の位置付けの変更有無については、把握している都道府県は全て、変更となる施設があると回答した。

3. 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる場合の課題等について

【設問3-3】

医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる可能性についての課題・国への要望等 (1/3)

No.	①課題 (n=39)
1	<p>【オペレーションが複雑で様々な課題 (n=10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接種の時期が重なりにより、ワクチンの二重管理とそれに伴うワクチンの無駄の発生、予約受付の併用など、ワクチン接種に係るオペレーションの複雑化とともに接種施設の負担が増大し、接種の実施に影響が出る。 ・調整主体が異なることからオペレーションの複雑化（接種施設類型、V-SYS上の登録、ワクチン分配等）。 ・ワクチンの搬送・移送計画を立ててきた県や市町村、関係団体もそれぞれ計画を練り直す必要がある。 ・接種場所である医療機関の混乱（予約の重複、接種キャパオーバーなど）が想定される。 ・同時接種により、医療機関の役割（基本・連携・サテライト）が重複して運用されると、ワクチンの配送計画や人員・会場の確保等に影響を及ぼし、オペレーションに混乱をきたす可能性がある。
2	<p>【医療従事者等の確保、マンパワー不足 (n=7)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者接種が医療従事者等接種と重なることから、当初予定していた集団接種会場での医師、看護師の確保が難しくなる。医療従事者不足で、対応困難な圏域が発生する恐れ。 ・限られたマンパワー（県職員）で医療従事者等接種と市町村支援を両立させることが難しい。
3	<p>【接種を担う医療従事者がワクチン未接種 (n=12)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向け接種を行う医師等がワクチンの未接種者であると医療従事者の理解は得られないと思料する。 ・医療従事者自身が未接種の状態でも高齢者向け接種を行うことで、医療従事者の感染リスクが高まり、接種に協力いただける医療従事者が減り、住民接種が計画的に進まない事態にもつながる可能性がある。
4	<p>【ワクチン管理 (n=7)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者向けと高齢者向けの接種用のワクチンが混在することとなるため、ワクチンの管理が煩雑化。 ・医療従事者等向けと高齢者向けのワクチンの配送を担う医薬品卸が競合することが懸念。
5	<p>【システム関連 (n=5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療者／高齢者向けで「連携型」「基本型」が異なる場合、ワクチン流通・システムが対応していない。 ・効率的なワクチン配分をしようにも、「V-SYSが対応できないため不可」という状況が生じている。

3. 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる場合の課題等について

【設問3-3】

医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる可能性についての課題・国への要望等 (2/3)

No.	②国への要望 (n=32)
1	<p>【スケジュール・ワクチン確保 (n=18)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確に医療従事者向けと高齢者向けのワクチン供給スケジュールを示してもらいたい。医療従事者と高齢者の優先接種の時期を重ねることなく、当初の予定どおり、医療従事者用のワクチン配布を優先し、医療従事者の優先接種(1回目)を終えた後に、高齢者の優先接種を開始するスケジュールとして頂きたい。 ・具体的な準備を行うための期間等も考慮して、全体的なワクチン供給スケジュールや、供給量に制約がある中での接種の考え方を示すなど、できる限り速やかに医療従事者等への優先接種を完了し、高齢者に対する優先接種への移行が可能としていただきたい。 ・確定スケジュールを早めに提示、まとまった量のワクチンを供給できるようワクチン確保に努力してほしい。
2	<p>【医療従事者等を優先 (n=13)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を設定した主旨を踏まえ、高齢者の4月開始に拘らず、医療従事者向けに変更。上記が困難な場合であっても、都道府県において弾力的な対応ができるような仕組みにしていきたい。(例えば、高齢者の接種担当医が未接種となることの無いように都道府県において柔軟に対応を可能とするなど)
3	<p>【システム、柔軟な対応 (n=8)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本型接種施設からのワクチン移送先を固定しないで欲しい。(状況により、基本型から基本型、基本型から当初予定していなかった連携型や基本型、異なる市町村の連携型への移送などが必要となる) ・医療従事者向け・高齢者向けで施設の位置付けが変わる場合(基本型⇔連携型)の対応として、基本型から基本型への移送を認めることや、2種類のV-SYS(医療従事者等向け・住民向け)を用意し、別のIDをあてるなどシステムの仕様によって運用が制限されないようにしていただきたい。 ・医療従事者対象のワクチン・市町高齢者対象のワクチンと区別することなく、接種券をお持ちの方に順次接種できるようにするなど、ワクチンを柔軟に使用できるような運用にしていきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者向け接種と高齢者向け接種の時期が重なっても、それぞれ円滑に実施できるよう、自治体・接種医療機関向けのマニュアルを早急に示していただきたい。

3. 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる場合の課題等について

【設問3-3】

医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なる可能性についての課題・国への要望等 (3/3)

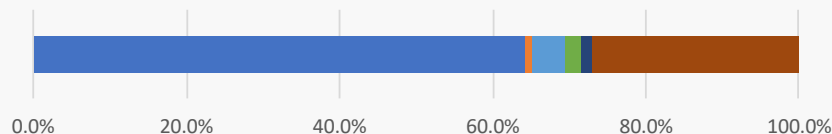
- 医療従事者等接種・高齢者向け接種の時期が重なった場合、医療従事者の確保、会場の確保、ワクチンの管理等、接種現場に大きな負担がかかる。
- 高齢者向け接種を実施する医療従事者の側が、ワクチン接種を完了できていない状況となることから、医療従事者の不安や接種会場での感染リスクが高まる可能性がある。
- 医療従事者等接種と高齢者向け接種で基本型/連携型の位置づけが変わる際の、V-SYS上の取扱が不明確である。
- 接種期間の重複による支障が極力生じることのないよう、できる限り速やかに医療従事者等への接種を完了し、高齢者に対する接種への円滑な移行を図ることが求められる。
- 早急な全体スケジュールや、接種順位に関する一定の考え方などの提示が求められる。

4. 医療従事者等接種対象者の内訳について

【設問4-1】医療従事者等接種の対象者について、現時点の総数を教えてください
 【設問4-2】前項の医療従事者等接種の対象者について、その内訳を教えてください
 (カテゴリー別の人数が調整中の場合は、調整のついでいる人数をお答えください)

全国計 約470万人 (n=47)

内訳



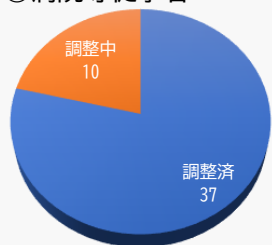
①病院、診療所（歯科を含む）の従事者(※)	3,024,253
②訪問看護ステーションの従事者	35,468
③助産所の従事者	379
④医学部生等	2,467
⑤薬局の従事者	200,871
⑥救急隊員等、海上保安庁職員、自衛隊職員	105,858
⑦自治体等職員	59,420
⑧調整中または未把握	1,270,582

(n=47)

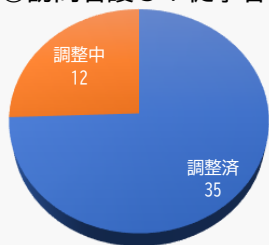
※医療機関と併設する介護医療院、介護老人保健施設の従事者含む

調整状況

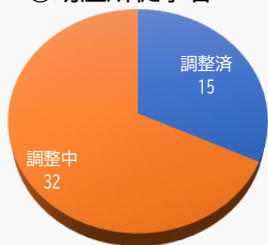
①病院等従事者



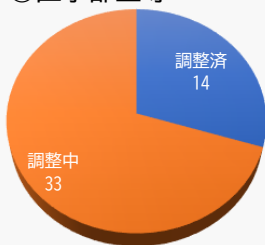
②訪問看護ST従事者



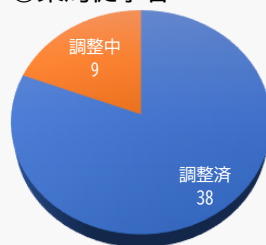
③助産所従事者



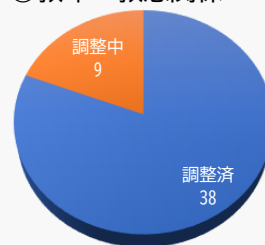
④医学部生等



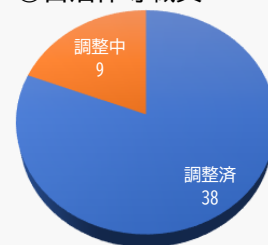
⑤薬局従事者



⑥救命・救急関係



⑦自治体等職員



- 医療従事者等の内訳については、病院、診療所の職員が60%以上を占めている。
- 調整中との回答も多く、特に、接種計画の提出期限直前に対象者として追加された、助産所従事者、医学部生等で調整中と回答した都道府県が多く見られた(調整中都道府県:助産所 32、医学部生等 33)。
- 現時点は総数のみの把握に留まり、職種別の人数内訳は全て調整中の回答もあった。

総括

ワクチン供給量不足に伴う現状

- ・ 都道府県・市町村の接種計画やV-SYSは、ワクチンが十分確保されている前提での大規模接種を想定しているため、ディープフリーザーを設置した基本型接種施設の医療従事者や各市町村に1箱ずつの割り当てもない状況で、医療従事者等優先接種が開始・高齢者向け接種の配分計画が出されたことで、様々な課題がでてきている。

各自治体の対応状況と課題

- ・ 医療従事者等向けワクチンを小分けせず、基本型接種施設へ主に配分した都道府県においては、対象者や地域の格差が生じている一方で、小分けした都道府県においては、基本型→基本型の移送を要したり、V-SYS上の課題があがっている。
- ・ 高齢者向け接種については、2回接種分（2箱）の小分けやバイアル単位で小分けする都道府県が多く、医療従事者等向け接種と同様の課題が生じる可能性が高い。
- ・ ワクチン未接種の医療従事者が高齢者向け接種を行うことへの懸念の声が多い。

今求められているもの

- ・ 十分量のワクチンや接種用資機材の確保、確定したスケジュールの早期提示
- ・ 医療従事者等接種と高齢者向け接種が同時期に実施されることへの対応策立案
- ・ ワクチン供給が潤沢でない段階での柔軟な対応